

第十部 第三章 2012（平成 24）年

第 1 節 「旧甲州道中（2 分割／下り／前半）」トレイル

～ [亡父同伴一錦旗奪還進軍作戦] ～

「旧五街道」三つ目の旧甲州道中に挑みました。特別な思い出があって、前後半の 2 回に分けて歩行しました。

前半は、トレイル開始の前日を 2012（平成 24）年 7 月 24 日（火）としました。この日の午前中は地元山形で亡父の 7 回忌の法事を執り行いました。この日の午後、東京に移動・投宿し、標記旧街道を正身翌日 7 月 25 日（水）日本橋スタート～7 月 28 日（土）大月ゴールまでの 3 連泊 3.5 日間で完歩しました。後半は、正身 2012（平成 24）年 8 月 21 日（火）大月スタート～歩行最終日 8 月 24 日（金）下諏訪ゴールまでの 3 連泊 3.5 日間で完歩しました。

前後トータル 6 泊 7 日間でルート沿い計画距離 211 km に対する実歩行距離 247 km を踏破しました。1 日平均の実歩行距離は 30.9 km、同時間 8.7 時間、同平均時速 3.6 km となりました。全ルートの概要は図—32 のとおりで、この時足跡を残した通過県は、東京都、神奈川県、山梨県、長野県でした。

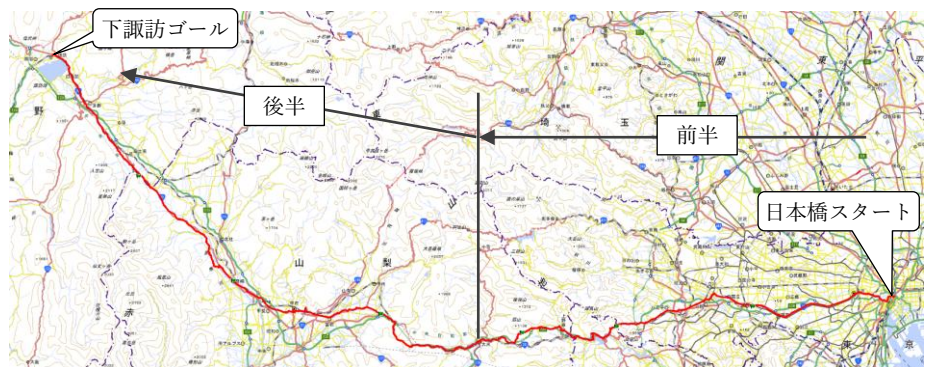
1. ルート設定

歴史街道トレイルの憧れである「旧五街道」に係り、これまで「1 番目旧日光道中」「2 番目旧中山道」を踏破しました。残りは、旧甲州道中・旧東海道・旧奥州道中です。図—64 上から旧五街道の位置関係をぱっと見、下諏訪は、地理的に本州の真ん中に見えます。また、今度の旧五街道は 3 番目ですが、3 は 5 の上から数えても下から数えても 3 で真ん中です。したがって、「旧甲州道中」に決めたのです。



2. 「大香ブランド老魂サブタイトル」設定の背景事情

以下のような思いがあって、亡父と共に東征軍錦旗を奪還するとの強い気持ちを固め、見出しの [亡父同伴一錦旗奪還進軍作戦] に設定し、敢えて真夏の猛暑期に挑む事にしましたのです。



図—32

(1) 「24」への拘り

a. 2回に分けたそれには訳がありました。始めと終わりに「24」を入れたかったのです。「24日」に拘りました。

一つ目は、「24日」は亡き父親の月命日です。父は2006（平成18）年8月24日（木）に満78歳の生涯を閉じています。「24」の並びをひっくり返すと「42」、つまり「しに＝死に」になります。亡くなった月は8月、亡くなった年齢が78歳、末広がり8（八）、ラッキーセブンの7（七）、縁起の良い数字が多く表出しました。

二つ目は、私の生年月日は昭和24年だからであります。亡父は「力」と言う名前でしたが、「俺の2倍の力を持った人になれと言う事で、24年の6月6日に生むように妻（私の母）に命じたのだ」と冗談を言っていたが、その6と6を足すと12になり、それを2倍にすると「24」になるのです。逆説的に、 $24 \div 2 = 12$ 、 $12 \div 2 = 6$ 、 $12 = 6 + 6$ 。6月6日に産めば12、その2倍は24になります。

三つ目は、この年は、和暦は平成24年、西暦2012年です。西暦の下二桁「12」の2倍は「24」です。これら全てが、縁起の良い演出となります。

b. 暦の24日は、1か月に1回しかない訳であり、始まりと終わりに24日を配当するには月を変えなければなりません。「24」と亡父の7回忌の法事に拘った7月24日を始めに絡ませた事から、終わりに関わらせるためには、8月以降に巡って来ます。秋の涼しい時期にするか、ちょっと迷ったのですが、前記「24」への思いを考え合わせれば、間を置かずにつき月で、残暑ある季節にしようと思い、8月に歩く事にしたのです。残りの後半距離を見積り、ゴール到着日は8月24日になる予定を立てたのです。

(2) 「錦の御旗（錦旗）」への拘り

「24」から「錦を飾る（その意味は、美しい着物を着る。転じて、成功して美しく着飾って故郷へ帰る事）」へ、さらに「錦の御旗（＝錦旗とも言う／要約すれば朝廷から与えられた官軍の印旗）」へと連想しました。はたまた、錦旗を掲げた戊辰戦争の東征軍（官軍）の事へと繋がって行きました。

1868（明治元）年勃発の戊辰戦争の舞台は様々ありますが、「旧五街道」との係りで就中「旧甲州道中」に関して浮かんで来たのは、次のシーンです。旧新撰組を中核とする甲陽鎮撫隊（隊長は近藤勇）が江戸から甲州道中を西進し甲府城を目指していた中で、板垣退助率いる東征軍（官軍）は東進しながら甲府城を先に占領し、（山梨県甲州市）勝沼（柏尾）で両軍が衝突、結局は東征軍（官軍）が勝利し、翌日、江戸無血開城となり、ここに江戸幕府は名実ともに崩壊したのです。

このような幕末に係り、京都守護職会津藩主松平容保公に対し孝明天皇からご宸翰（天皇直筆の手紙）と御製（天皇の和歌）を下賜された事を思い出し、賊軍にされ謹慎下に置かれた江戸幕府第15代征夷大將軍徳川慶喜、容保公や近藤勇の無念の心情に思いを致し、私の判官鼻眞（弱い立場に置かれている者に対して同情を寄せる心理）が目覚めました。「そうだ、今の私が憧れを持って挑戦している旧五街道を開拓・整備したのは徳川幕府だ！ 徳川軍こそ『錦の御旗』を掲げる大義がある。」と思ったのです。

(3) 亡父と共に

前記の思いを凝縮し、亡父に対しあの世からこの世に再登場を願い、私と同伴で、「我らこそは『錦旗』を奪還すべく進軍すべし」と誓い、実行に移した訳です。

(4) 標記件名を「・・・トレイル」とした事

前記の理由があって敢えて2回に分けたとは言え、結果的にスタート基点とゴール基点を結んだとは言え、完全一気通貫とはならなかった事から「スルーハイク」の言葉を使わなかったものです。

3. 東征軍駆逐の吾が進軍

前後半とも連日 30°Cを超え、時には 35°Cを上回る猛暑・酷暑の連続でありました。朝の歩き始めから夕方の宿まで1日中・終日、全身が汗でビショ濡れ。敢えて猛暑に突っ込んで歩きましたが、激動の戦前戦後の昭和期を生きて来た亡き父母の苦労や幕府軍の痛恨の極みの心境と比べて見れば、取るに足らない些事だと思いました。

✓ 前半は、テントも背負ったので体力的にきつかったのです。

1度目は府中市街地の公園兼神社境内の端にテントを張りました。翌日のお祭りの準備で遅くまで賑やかでした。人目に触れる分、テントが覗かれる様で寝た心地にはなりませんでした。

2度目は、小仏峠の茶屋廃屋の軒下にシュラフ袋に入って野宿しました。いずれも虫の大群に悩まされ、寝ないも同然でした。大月に到着した処で前半の締め括りとし、ここで一旦打ち切り中断しました。

✓ 次に後半は、前半を繋いで大月からスタートしました。クライマックスは標高 1,100mの笹子峠（図-33）を越えて下った勝沼の大善寺の所（柏尾）でした。まさに前記の両軍がここで激突した訳です。

[亡父同伴一錦旗奪還進軍作戦] 任務の本格遂行はここから先だと言う思いを強めました。東征軍を甲府へ、その先の下諏訪へ押し返すべく、亡父と相談しつつ戦略・戦術を駆使しながら前進しました。大義の錦旗を奪還すべく、正々堂々進軍し、そしてついに、中山道との合流点下諏訪（図-32）まで到達したのです。ここに於いて、激闘を征しついに東征軍から錦旗を奪還し、所期の目的を達成したのです。同道中沿いの皆さんから頂戴した物心両面の多大な支援に感謝した次第です。



図-33

4. NHK大河ドラマ「八重の桜」への思い

本トレイルの2012（平成24）年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」（平成25年放送）の前年で、本屋

さんには関連の書籍が山ほど並んでいる時期でした。「八重」そのものの生き方に余り関心はなかったが、幕末・維新の波乱の大激動時代に生きた志士達に惹かれました。そのような環境があって、歩く中では、「大香ブランド老魂サブタイトル」が常に頭にあって、心身に「苦楽」が混在する楽しいトレイルとなりました。

(後日談になるが、このドラマについては、私のトレイルと、特に幕末に於ける藩主松平容保公率いる会津藩の葛藤、波乱に満ちた活躍の舞台とを重ねて視聴する事が出来ました。)

5. ちょっと残念な事

旧甲州道中ルート沿いは、山梨県から長野県に掛けて、大月の南西方向に位置する富士山が見えるはずであったが、この前後2回に渡るトレイルでまったく見る事が出来ませんでした。夏の気象下にあったために山岳には雲が湧いて見る事が出来なかったのです。

6. 本トレイルの感想をつたない短歌に

“前日に錦旗^{きんき}を揚げる夢^あを見た 覚めてこれから父と進軍”
“猛暑日が続く真夏を歩き切り 我慢の吾身に少しの誉”
“夏歩き父母の苦勞と比べ見れ 取るに足らざる我が儘息子”
“どうしても24^{にし}に拘り歩き来た 亡父と同伴錦旗^{きんき}を奪還”
“父と子が同業二人の甲州路 錦の御旗が旗めく旅路”

=====
(後日談)

ところで、この年、2012(平成24)年12月2日(日)、山梨県大月市笹子町の中央自動車道上り線笹子トンネル内で、天井板落下事故(天井板のコンクリート板が約130mの区間にわたって落下/図-34)により、走行中の車複数台が巻き込まれて9名が死亡した事故が発生しています。

私が歩いた古道の東側を笹子トンネルとして、それぞれ国道20号線、高速中央自動車道、JR中央線のトンネルが通じているのです。

もともと、このトンネルを通過する計画はまったくありませんでしたが、あまり良い気分にはなりませんでした。

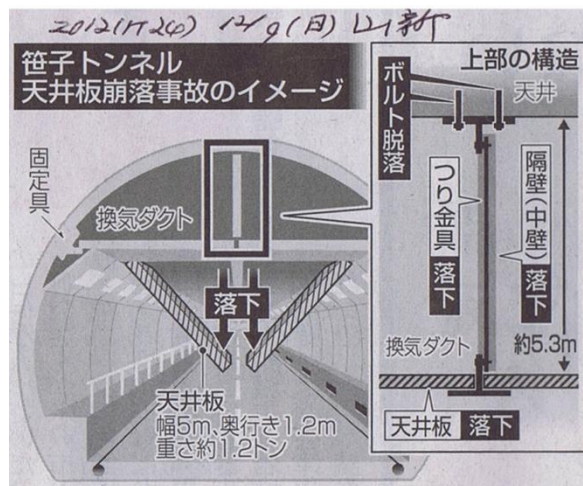


図-34

⑧ 2012(平成24)年「旧甲州道中(2分割/下り)」トレイル(6泊-7日間)の全踏破歩行記録

-----移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機(地図搭載、GPS軌跡&タイムスタンプ機能)」と「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ～ 亡父同伴-錦旗奪還進軍作戦 ～

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 f=a/e	天候	備考	宿泊先(略称)	
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称
以下【前半の部】													
前日	7月24日	(火)	(午前中、山形で亡父の7回忌の法事)								(前日泊)→	東京都中央区 トレストイン日本橋	
スタート													
1日目	7月25日	(水)	[日本橋(S)]→高井戸→府中	34.4	6:30	16:00	9:30	9.5	3.6	晴れ		東京都府中市 八幡公園テント泊	
2日目	7月26日	(木)	(前終点)→日野→八王子→高尾→小仏峠	32.6	6:00	15:30	9:30	9.5	3.4	晴れ	小仏峠	東京都八王子市 旧茶屋跡にシュラフ泊	
3日目	7月27日	(金)	(前終点)→相模湖→上野原→犬目	31.2	5:30	15:40	10:10	10.2	3.1	曇り		山梨県上野原市 君恋温泉	
4日目	7月28日	(土)	(前終点)→猿橋→大月(中間G)	11.8	7:30	10:50	3:20	3.3	3.5	晴れ		大月駅から自宅へ	
3.5日間 (小計)				110									
以下【後半の部】													
前日	8月20日	(月)									(前日泊)→	山梨県大月市 旅館「市川屋」	
1日目	8月21日	(火)	(前終点)大月(S)→笹子峠→勝沼	33.5	6:00	15:10	9:10	9.2	3.7	晴れ	笹子峠	山梨県甲州市 民宿 大善寺	
2日目	8月22日	(水)	(前終点)→甲府→韮崎	37.2	6:00	16:10	10:10	10.2	3.7	晴れ		山梨県韮崎市 ホテルルートイン韮崎	
3日目	8月23日	(木)	(前終点)→台ヶ原→葛木→神代	33.5	6:10	15:40	9:30	9.5	3.5	晴れ		山梨県北杜市 信甲館	
4日目	8月24日	(金)	(前終点)→富士見→茅野→上諏訪 →[下諏訪(G)]	33.2	6:05	14:35	8:30	8.5	3.9	晴れ		ゴール	
3.5日間 (小計)				137									
合計	7.0日間		合計	247									
1日平均				30.9									
				km	8.7	3.6	26.4	←ルート沿い計画距離					
					時間	km/h	km						

(注1) ほぼ中間地の大月宿を挟んで前後2回に分けてトレイルした。トータル7日間は3.5日間(1回につき3日半日間)×2に依る。2回とも連日33°C前後の猛暑の中であった。

(注2) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、36km(1日当たり4.8km余り)長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジクザク歩き方の影響による。